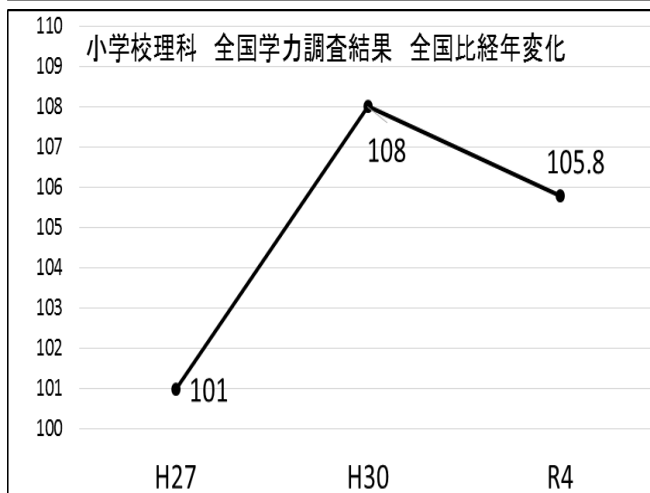
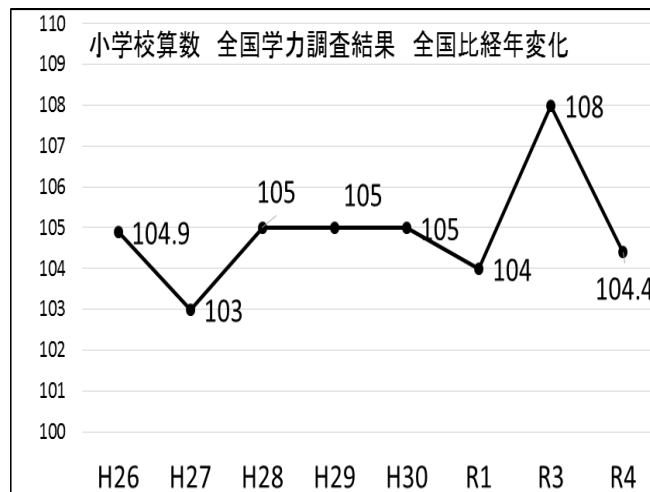
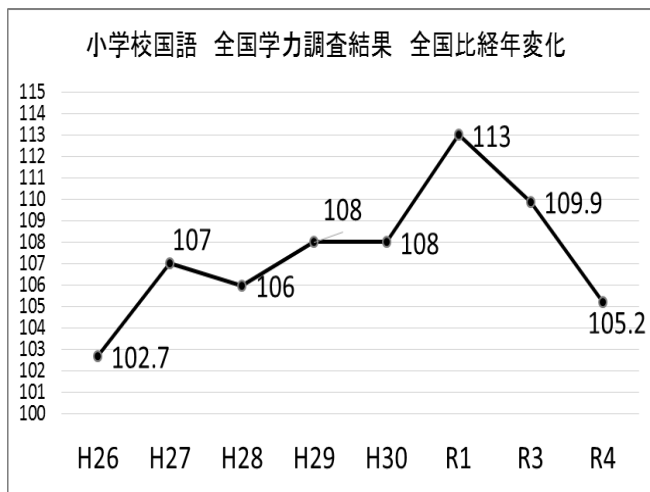


V 全国学力・学習状況調査教科別経年比較

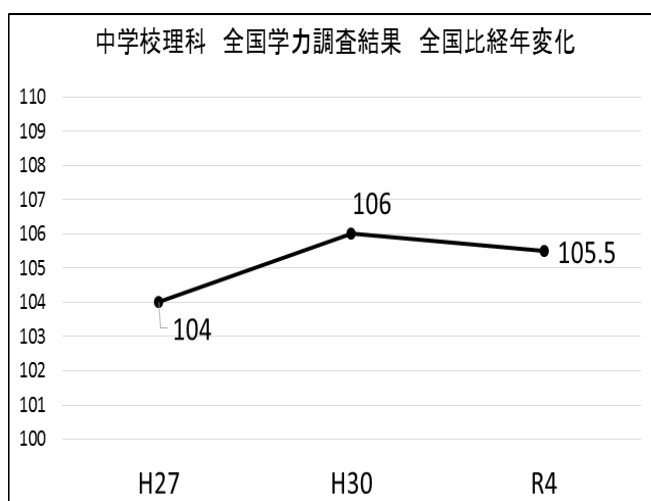
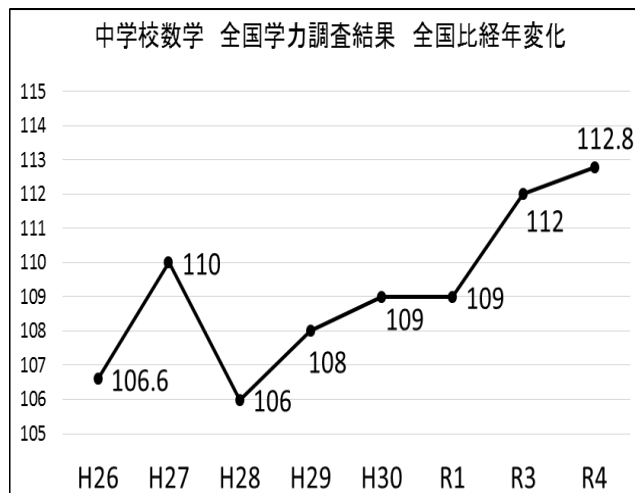
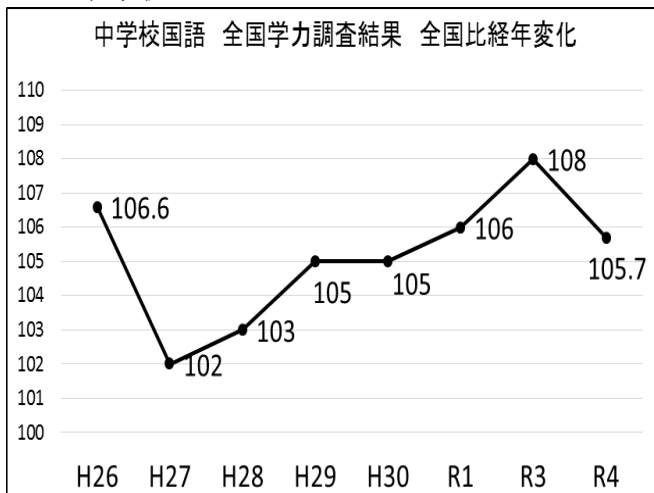
令和元年度調査から、教科のA、Bの問題区分が廃止された。問題の傾向が、平成30年度調査まで用いられたB問題に似ていることから、経年比較はB問題で行っている。（福岡県教育委員会の分析も同じである）

1 小学校



- (1) 国語 全国の平均正答率（100）を超える状況を継続している。一昨年と昨年度はおよそ110ポイントの結果であった。今年度は105ポイントと経年変化の推移を示すようになってから2番目に低い数値となった。低下している学校が多いため、理由を分析し国語科学習指導の改善を図ることが求められる。
- (2) 算数 全国の平均正答率（100）を超える状況を継続している。昨年度は、108ポイントと経年変化の推移を示すようになってから、最も高い数値を示した。今年度は、例年並みの数値となり昨年度から3ポイント以上下がった。各学校で理由を分析し算数科学習指導の見直しを図ることが求められる。
- (3) 理科 全国の平均正答率（100）を超える状況を継続している。4年前と比べて2ポイントあまり低下したが7年前よりは3ポイント以上高く、3教科の中で最も高い数値を示した。各学校で理由を分析し理科科学習指導の更なる改善を図ることが求められる。

2 中学校



- (1) 国語 全国の平均正答率(100)を超える状況を継続している。昨年度は108ポイントで例年よりもおよそ3ポイント高い結果を示した。しかし、今年度は例年並みの105ポイント台となった。平成29年度から5年間105ポイント以上で推移していることは大きく評価できる。各学校で理由を分析し継続して国語科学習指導の改善を図ることが求められる。
- (2) 数学 全国の平均正答率(100)を超える状況を継続している。今年度は112.8ポイントと経年変化の推移を示すようになってから、最も高い数値を示した。さらに、全ての年度で105ポイント以上に到達し、近年の2年間は110ポイントを超えていることは評価できる。各学校で理由を分析し継続して数学科学習指導の改善を図ることが求められる。
- (3) 理科 全国の平均正答率(100)を超える状況を継続している。4年前と比べてほぼ同じ数値を示している。近年の2回は105ポイントを連続して超えていることは評価できる。数学と同じように110ポイントを目指して、各学校で理由を分析し継続して理科科学習指導の改善を図ることが求められる。